

事業所名

児童発達支援あぶあ

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		社名「あぶあ」の名称の由来はフィンランド語の「助けて」。大人、子ども、障害の有無に関わらずみんなが助け合える優しい社会を目指すことが法人理念です。またお子様に障害があるからといって保護者が働くことを諦めなくてよい社会づくりをしていきます。		
支援方針		体の発達を基礎にこころ（認知・行動）、ことば、社会性の発達を促す療育をバランスよく提供します。おひとりおひとりのペースを必ず尊重します。早い子もゆっくりの子もその子の「ふつつ」を当たり前大切に、「わたしはわたしのままでいいよ。」とお子様自身が自信をもって生きていけるように支援をしていきます。		
営業時間		平日9：20-11：30 12：55-17：30	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	この領域では、子どもたちが安全で健康的な生活を送るための基盤を築きます。 目標：自己管理能力や健康的な生活習慣を身につける。 活動例： 手洗いやうがいなどの習慣をサポート。 着替えや食事のマナー片付け、気持ちのきりかえなど、日常生活のスキルを指導。 排泄関係の支援（排泄感覚の発達・大人への表出から自立へサポート）		
	運動・感覚	この領域では、体の動かし方や感覚の発達を促進します。運動能力と感覚統合を重視します。 目標：基本的な運動能力を高め、感覚と運動の調和を図る。 活動例： ジャンプやボール遊びで粗大運動を強化。 積み木やパズルで手先の器用さを育てる。 感覚統合遊び（砂遊び、水遊び、触感ボード）を通じた感覚刺激。 大型遊具（スイング・サイバーホイール等）で遊びながら感覚統合運動をおこなう。		
	認知・行動	子どもの考える力や問題解決能力を育てる領域です。集中力や自己制御の力も含まれます。 目標：知識を習得し、考える力や行動計画の力を養う。 活動例： 三項関係の形成 パズルやブロックで論理的思考を促進。 指示理解を促し順番を守る、ルールを守るといった行動スキルを練習。 図形認識や色分けなど数 大小長短 左右前後など、基礎的概念形成と認知スキルを育成。 傾聴（注意継続）ができるよう支援		



	言語 コミュニケーション	言葉を使ったやり取りや、相手の話を理解する力を育てます。非言語的なコミュニケーションも対象です。 目標：言葉で気持ちを伝えたり、相手の意図を理解する力を高める。 活動例： 共同注意の促し（他者とのやりとりの第一歩） 簡単な言葉遊びや読み聞かせ、楽しい遊びを通じて語彙を増やす。 あいさつや自己紹介などの基本的な会話スキルを練習。場面設定をして適切な会話の練習（ソーシャルスキルトレーニング） 絵や表情を用いたコミュニケーションの練習。 ひらがなを読む力など視知覚認知能力の向上 音韻意識 発声 記憶力向上や説明する力の向上を目指します。		
	人間関係 社会性	他者との関係を築き、協調性や共感力を養います。集団での活動に必要なスキルを学びます。 目標：他者との良好な関係を築くためのスキルを育む。 活動例： グループ遊びや共同作業で協調性を学ぶ。 相手の気持ちを考え、共感する練習。（他者視点の獲得） ルールのあるゲームを通じて、状況を理解する力の向上・抑制機能・社会的なルールを理解を促す。		
家族支援		保護者様が子どもの発達に対する理解を深め適切に対応できるようにする 保護者様が子どもの発達を理解し、肯定的に支えられるように日常から信頼関係を構築し丁寧な支援を行います	移行支援	関係機関との情報共有を通じて支援計画の見直しや改善を継続的に行い子どもの発達や成長に最適な支援が提供されることを目指す
地域支援・地域連携		関係機関での役割分担を明確にして日頃から情報を共有する体制づくりを心掛ける 日常的な生活や支援に活用するための具体策を提案する。オンライン等を活用しての関係づくりに努める 子どもを担当する保健師や、子どもが通う医療機関/訪問看護・訪問リハビリなどとの情報連携や調整を行います。	職員の質の向上	勤務時間内に外部研修受講支援を行っています。 ・強度行動障害支援者養成研修 ・児童発達支援管理責任者研修 ・日本感覚統合学会研修 ・PECS研修 いつでも空き時間にみられるWEB教材導入
主な行事等		言語聴覚士等専門職による講演会 保護者参加型療育・交流会		